

## GLOBAL TIMES VOL.8

### マレーシア・東北研修報告

#### 海外実態調査 プトラマレーシア大学・スウィンバーン大学ワークショップ

10月29日(日)から11月4日(土)の7日間、スーパーグローバル(SG)重点分野講座を受講する2年生8名が、今年度のテーマである「マレーシア 経済発展と自然破壊」に基づき、「エビ養殖とマングローブ林、熱帯雨林とオイルプランテーション」についてマレーシアにて海外実態調査を行いました。

**調査1日目** クアラルンプールから北へ350Kmにあるペラ州ルムト郡チャンカートクルイン村にマングローブ林とエビ養殖場の調査に行きました。養殖場を見学し、養殖場経営者等から養殖池の管理、エビの飼育方法・病気への対策などを聞き取りました。

8月の下見ではマングローブ林だった場所がすべて伐採され、新たな養殖池が造成されていました。



**調査2日目** プトラマレーシア大学で研修を行いました。大学の先生方から実態調査に関する講義を受け、その後、能勢町・能勢高校とSGHの紹介に加え今まで学んできたことや海外実態調査の目的などを英語でプレゼンテーションし、大学生たちとグループでディスカッションしました。



**調査3日目** ボルネオ島でオイルパームの調査を行いました。オイルパームプランテーションを見学し、研究者の方からオイルパームについて専門的な講義を受けました。続いて搾油工場にて、オイルパームの搬入から加工・搾油までの工程を見学しました。見学後、工場関係者の方々に質問を行いました。



**調査4日目** サラワク州バコ国立公園で熱帯雨林の調査を行いました。国立公園へは陸路では行けないため、ボートで20分かけて上陸しました。ジャングルの中を探索しながら、ガイドから熱帯雨林の地質や植物について話を聞きました。途中、テングザルやカニクイザルなど東南アジア特有の動物に遭遇しました。森を抜けると、一面がマングローブ林に覆われた海岸に着き、課題研究のテーマであるマングローブを間近で観察しました。



**調査5日目** サラワク州クチン市内にあるスウィンバーン大学にて研修を行いました。キャンパス案内の後、沢山の先生や大学生を前に、能勢高校の法被を着て英語でプレゼンテーションを行い、先生方から「高校生のレベルを超えた専門的な内容である」と講評を頂きました。その後、先生や大学生に質問・インタビューを行いました。



7日間という短い滞在でしたが、様々な気付きや発見があり、充実した実態調査となりました。

## 国内実態調査 気仙沼市、陸前高田市、大槌町を訪ねて

11月5日(日)から8日(水)までの4日間、スーパーグローバル(SG)重点分野講座を受講する2年生3名が東北にて国内実態調査を行いました。

**調査1日目** SGH校である宮城県立気仙沼高校を訪問し、能勢町についてのプレゼンテーションをしました。その後、お互いのSGH課題研究について意見交換を行いました。



**調査2日目** 牡蠣養殖家である畠山重篤さん(京都大学 社会連携教授・NPO法人『森は海の恋人』理事長)を訪問しました。小さな筏に乗ってカキの養殖場まで行き、調査を行いました。カキの特徴、養殖の概要とそこで一緒に生息する生物について説明を受けました。

また、九九鳴き浜に移動し砂浜環境が生物に及ぼす影響についても説明がありました。畠山さんの研究所で、海と森と人の関わりについて話がありました。上流に位置する矢越山を訪れ、植林の方法や植生の特徴について説明を受けました。

その後、岩手県陸前高田市へ移動し、震災のシンボルである奇跡の一本松を見学しました。



**調査3日目** 陸前高田市の戸羽市長を表敬訪問しました。SGHの取り組み概要を説明し、市長から新しい町づくりの思いについてお話を聞きました。その後、岩手県大槌町にある岩手県立大槌高校を訪問し、交流を深めました。最後に大槌町の町長を表敬訪問し、復興の現状や高校生が地域に貢献できること、大槌町の特徴を活かした町づくりなどのお話を聞きました。



実際に復興現場を訪れたことはとても貴重な体験となりました。

## 講座と講師の紹介

### ● 1年SG基礎知識講座

#### 第4回 9/25(月)「オイスカ研修生と国際交流活動」

##### ● 清水 利春 さん (オイスカ関西研修センター所長)

オイスカ関西研修センターで学んでいるフィリピンからの研修生2名から、日本での自身の研修内容について聞きました。清水さんから、「今後グローバル化が加速し、将来必ず外国の方たちと一緒に仕事をするようになるでしょう。一層、グローバル体験が必要となってきます」とお話がありました。



### ● 2年SG基礎知識講座

#### 第5回 9/20(水)「マレーシアの熱帯雨林の生態系」

##### ● 乾 陽子 さん (大阪教育大学准教授 教育学部 教育協働学科 理数情報講座)

東南アジアの熱帯雨林の歴史と現状についての講演を聞き、人類の貴重な財産である熱帯雨林が失われていく大変な状況の中で、私たちに何ができるのかを考えました。またこの日は文部科学省から学校訪問があり、SGH講座の授業見学が行われ、外部講師とやりとりを展開する様子を見ていただく機会となりました。



### ● 2年SG重点分野講座

#### 第16回 9/5(火)

2015年10月に気仙沼市よりご来校いただいた、牡蠣養殖家 畠山重篤さんの講演VTRを編集した本校制作ビデオ教材『森は海の恋人』を活用し、11月の気仙沼市での国内実態調査に向けて事前学習を行いました。



## 第 17 回 9/12(火)

### 「熱帯雨林とパームオイルプランテーションについて」

#### ● 祖田 亮次さん (大阪市立大学准教授)

マレーシアと日本の森林面積の変化を詳しく学び、歴史的・経済的背景を踏まえてその特徴や問題点を考えました。能勢の天然林や森林資源を地域の活性化に役立てる方法を探る貴重な機会となりました。



## 第 18・19・21・24・28・30 回 9/19(火), 26(火), 10/10(火), 24(火) 11/14(火), 21(火)

#### ● 乾 陽子さん (大阪教育大学准教授) 教育学部 教育協働学科 理数情報講座)

マレーシア現地実態調査へ向けて掘り下げていくべき研究内容についての具体的アドバイス、発表用のスライドを作るポイント、質問・インタビュー内容の指導がありました。また、東北国内実態調査の事前学習と質問・インタビューの準備作業を行いました。11月には中間発表会に向けての指導がありました。

## 第 20・23 回 9/30(土), 10/21(土)

海外・国内実態調査の日程と活動予定に照らし合わせて、事前学習を行いました。調査の目的・内容などの詳細を再確認し、インタビュー準備のワークショップなどを行い、作業を進めました。

## 第 22・29 回 10/21(土), 11/18(土)

#### ● ティモシー・カーンさん (カナダ出身 関西学院大学・大阪産業大学講師)

10月21日は「マレーシア 経済発展と自然破壊」と題して講演・ワークショップがありました。11月18日はマレーシア研修で大学を訪れる際に英語でプレゼンテーションを行うためのアドバイスを受けました。



## 第 25 回 11/7(火)

マレーシアから戻り、調査報告や写真の整理を行いました。大阪大学理学部生物科学科4回生の高成壮磨さんからの指導もあり、中間発表会に向けてのプレゼンテーション準備作業を進めました。

## 第 26・27 回 11/11(土)

### 「SG講座の学び方～SGHの学びを地域に生かす」

#### ● 斉藤 俊幸さん (地域再生マネージャー)

中間発表会に向けたプレゼンテーション作成のアドバイス、講評がありました。海外・国内実態調査を振り返り、論文にまとめていく流れを確認し、研究の考え方やプレゼンテーションの作り方を学びました。



#### ● 3年SG基礎知識集中講座



## 9/20(水)

9月4日に受けた立命館大学教授 久保田崇さんの講義をもとに、グループワークを行い受講内容を深めました。この日は文部科学省の学校訪問があり、SGH講座の授業見学が行われました。

#### ● 3年SG重点分野講座

## 第 4・5・6 回 10/20(金)「SGH課題研究をキャリアに生かす」

#### ● 松見 敬彦さん

### (ライティングワークス トリガーワークス主宰)

モンゴルやコスタリカでの環境保全や地方創生を、能勢町の活性化に活かす方法を考える講義とワークショップを行いました。SGH課題研究で学んだことを今後のキャリアに活かすため、プレゼンテーションや自己表現の方法を学びました。



## 国際交流と校外学習

### ■ ネットシステム交流

新しい遠隔ネットシステム“スムーズスペース”を使い、2年SG重点分野講座受講生が、SGHの発表交流会を行いました。

★7月 18 日(火)、豊中高校のSGHチームとお互いに課題研究をプレゼンテーションしました。マスコミ、大阪府及び能勢町の行政・教育関係者など多数の見学がありました。

★9月9日(土)、豊中高校の文化祭において、スムーズスペースを通し、フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (FTCJ)の活動紹介を行いました。

★9月 13 日(水)、宮崎県立飯野高校の地域課題研究代表チームと、課題研究を互いに発表しました。離れた場所でも、自分達の研究テーマを発表しあい学び合えるという可能性を実証しました。

### ■ 大阪大学にてプレゼンテーション

7月 26 日(水)、2年SG重点分野講座生徒 13 名が大阪大学 今岡良子先生による講義「現代社会を読み解く～生物多様性とモンゴル～」(アクティブラーニングを繰り返してトレーニングする講座)に招待され、SGH課題研究のプレゼンテーションとワークショップを行いました。

### ■ FTCJ テイク・アクション・キャンプ

8月 14 日(月)～18 日(金)、FTCJのテイク・アクション・キャンプに参加しました。全国から集まった高校生と共に、グローバルイシューを学びました。様々なフィールドパークやアクションプランを通して、課題解決の方法を話し合いました。

### ■ 能勢さとやま創造館 荒木谷フィールドワーク



8月 25 日(金)、2年生SG重点分野講座受講生徒 11 名が、能勢町荒木谷での能勢田尻炭振興協議会主催のフィールドワークに参加しました。能勢さとやま創造館代表の小谷義隆氏の指導のもと、ヘルメットを着用しチェーンソーを使った伐倒(木を切り倒すこと)のデモンストレーションを見た後、安全を確認しながら鋸を使った伐倒体験を行いました。木が大きな音を立てて倒れる瞬間、歓声があがりました。猛暑の中でのフィールドワークを通して、自然を守ること、環境保全をすることの大変さと大切さを学ぶことができました。



## SGH 中間発表会

11月 22 日(水)、SGH中間発表会を本校体育館で開催しました。前半は本校SG重点分野受講生徒も参加したインドネシア伝統音楽の“ガムラン”の演奏から始まり、大阪市立大学特任教授 中川眞先生には「異文化とともに～グローバル人材～」と題してご講演をいただきました。

後半は、2年SGS受講者 13 名が「能勢とSGHの紹介」の英語プレゼンテーションを行いました。何度も練習した成果が表れたプレゼンテーションとなりました。続いて、国内実態調査報告「気仙沼市、陸前高田市、大槌町を訪れて」、海外実態調査報告「エビ養殖とマングローブ林破壊」、「オイルパームプランテーションと熱帯雨林の伐採」の3グループで発表を行いました。

最後に、コスタリカ留学をもとに3年SG重点分野講座で行った課題研究「環境サービス(PES)研究～コスタリカの取組みから大阪府能勢町の環境保全の方向性を考える」を発表しました。

発表後、SGH運営指導員の方々から講評をいただきました。

SGH課題研究の集大成である 2018 年 2 月 3 日(土)の最終発表会に向けて、また気持ちを新たに課題研究に取り組んでいきます。

